

6 男女間の暴力を防止するために必要なこと

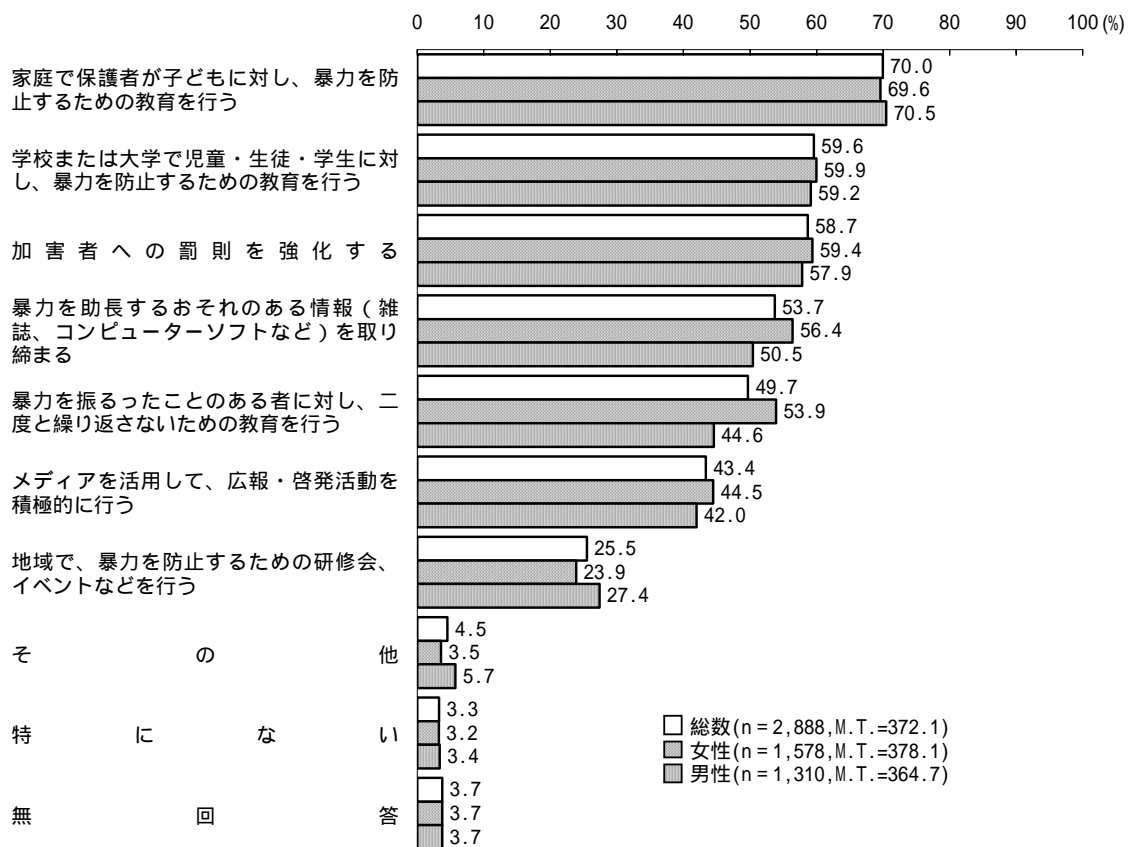
最後に、男女間の暴力を防止するために必要だと考えることを聞いたところ（図6 - 1）、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が70.0%で最も多くあげられ、以下「学校または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」（59.6%）、「加害者への罰則を強化する」（58.7%）、「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる」（53.7%）、「暴力を振ったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」（49.7%）、「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」（43.4%）の順となっている。

男女別にみると（図6 - 1）上位3項目に差はみられないが、「暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる」（女性56.4%、男性50.5%）と「暴力を振ったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」（同53.9%、44.6%）は男性より女性に多くあげられている。

【すべての方にお聞きします。】

問26 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまる番号すべてにをつけてください。（はいくつでも）

図6 - 1 男女間の暴力を防止するために必要なこと



性・年齢別にみると(図6-2)、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」は男性の30代(77.1%)で8割弱と他の性・年齢層より特に多くあげられている。また、「加害者への罰則を強化する」は女性で若年齢層ほど多くあげられ、20代(73.8%)で7割を上回っている。

一方、「暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる」は、男性の年齢が高くなるほど多くあげられている。

「地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う」は、男女とも高齢者ほど多くあげられる傾向がある。

図6-2 男女間の暴力を防止するために必要なこと(性・年齢別)

